

## 変革の年に 特殊法人から独立行政法人へ

2003年を振り返ったとき、イラク戦争とその後の世界情勢は、日本の外交問題のみならず、広く国内世論や私たちの生活にも大きな影響を与えた一大事件だったと言えるのではないのでしょうか。

戦後イラクの安定化は地球規模の課題です。すでに各国の協力により人道・復興支援などかずかずの試みが行なわれていますが、国際交流基金(ジャパンファウンデーション)では、いち早く2003年1月に中東交流事業業務室を設置しました。政治経済から社会・文化・歴史といった多層的な側面より中東地域の姿を描き出す「中東理解講座」の開催は、その事業のひとつです。また、日本の有識者を中東地域に派遣して現地有識者とのシンポジウムを実現させた「中東地域文化交流・対話ミッション」や、イラクのサッカー代表を招いて国際親善試合を実現するためのサポートも行なってきました。このように日本の人々と中東地域の人々とが、さまざまな交流事業を通じて互いの文化を体感し、相互理解を深めることは、今後も重要な事業となるでしょう。

2003年は大型の文化事業が次から次へと開催された年でもありました。「日本ASEAN交流年」や「日米交流150周年」に関連する各種事業はその代表ですが、文化芸術、スポーツ、教育、経済、市民交流といった幅広い分野で、多種多様な交流事業が年間を通して実施されました。パリ日本文化会館で開催された「ひととロボット：夢から現実へ」という複合イベントも話題となりました。ロボットという無機質で個性が無く、一見普遍的なものと思われる機械にも、そのロボットが生まれてきた国・地域の文化的背景が深く関係していることを、日本人ならではの切り口で構成した展覧会は、多くの来場者を魅了しました。

一方、2003年は実は私どももジャパンファウンデーション自身にとっても、大きな変革の年でもありました。1972年に外務省の特殊法人として設立され、日本の国際文化交流事業を推進するための専門機関として機能してきましたが、2003年10月に、より政府から独立した独立行政法人として新たなスタートを切りました。これを機会にいっそう効果的・効率的に事業を実施することができるよう、また皆様にとって親しみやすくより役に立つ存在になるように、思いきった改革を進めております。

国際社会をめぐる重層的な環境変化のなかで、文化交流の形態も急速に変化しています。こういった潮流に対して、的確に対応し効果的な事業を実施することこそが、私たちに課せられた責務であり、またそうした活動を通じて国際文化交流を専門的に実施する日本で唯一の公的機関としての役割もさらに高まってゆくと考えています。予算的にも厳しい状況が続いているものの、今後ともさらなる事業の効率化、自己収入の拡充、さらには外部有識者による評価を通じたご批判・ご助言を通じて、より効果的な事業運営を行なってまいります。

今後ともご支援、ご指導たまわりますよう、お願いいたします。

2004年 8月 独立行政法人 国際交流基金  
理事長 小倉 和夫